

「つどう・まなぶ・むすぶ」ための講座への取組 ～ コロナ禍からの受講者回復をめざして～

1 はじめに

琴海文化センターの講座は、琴海地区の北部、中部、南部の3地域で開催し、それぞれが地域コミュニティの住民活動の場として「つどう・まなぶ・むすぶ」をめざした取組を行っている。

令和2年度までの講座は、多種多様であったが基本的に単発式であったため、受講者の増加や定着はあまり見られなかった。また、令和2年度はコロナ禍もあり受講者は著しく減少した。しかし、同年度の秋に3回シリーズの連続講座を計画したところ、ロコミもあり、回を追うごとに受講者が増えていった。そこで令和3年度からは、成人講座における連続講座を中心に取組み、受講者の回復を目指した。

2 実践内容

1 開設した連続講座

- (1) 令和2年度以前
 - ・楽しく介護予防運動（令和元年度の秋から継続）
 - ・おいしいコーヒーの淹れ方（令和2年度の秋から継続）
- (2) 令和3年度
 - ・心と身体の健康体操
 - ・名作映画会
 - ・プリザーブドフラワー教室（令和5年度の春で終了）
- (2) 令和4年度
 - ・筆ペン教室
 - ・スマホ教室（令和3年度は単独講座）
- (3) 令和5年度
 - ・パソコン教室



楽しく介護予防運動



おいしいコーヒーの淹れ方



心と身体の健康体操



名作映画会



プリザーブドフラワー教室



筆ペン教室



スマホ教室



パソコン教室

2 講座の周知方法

- (1) 令和2年度以前
 - ・「公民館講座チラシ」（長崎市生涯学習企画課作成）
 - ・「こすもすだより」（琴海地域センター作成）
 - ・「戸別受信機での放送」（長崎市防災行政無線の利用）
 - ・「講座一覧ポスター」（琴海文化センター作成）…各自治会公民館での掲示
 - ・「琴海文化センターホームページ」（琴海文化センター作成）
- (2) 令和3年度以降（新たに取組んだもの）
 - ・「講座毎の詳細チラシ」（右図、琴海文化センター作成）…各自治会公民館や郵便局、JA長崎せいひ琴海支店での掲示と設置、講座受講者への配付
 - ・「防災メール」（長崎市防災行政無線の利用）
 - ・「琴海文化センターホームページ」（琴海文化センター作成）…受講申込みを可能

R5 秋講座チラシの一部

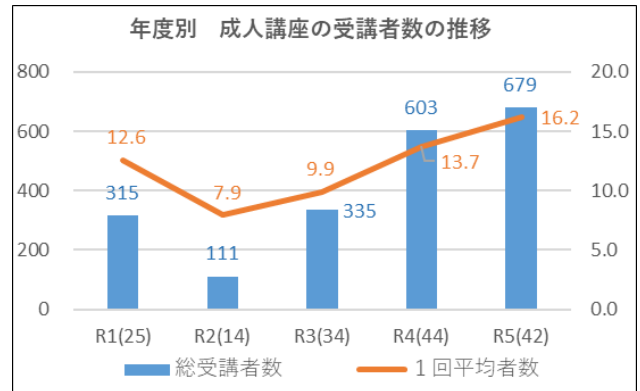
③ 受講者の状況

1 成人講座の総受講者数

次の表やグラフは、自主的な受講による成人講座について比較したものである。（老人会との共同開催やコンサート等へ参加要請を行った成人講座の受講者数は除いている。）

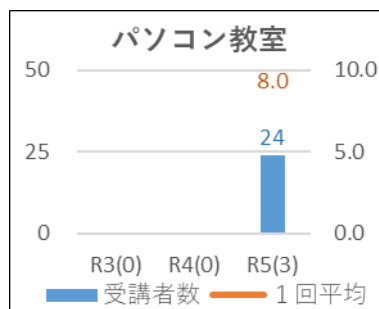
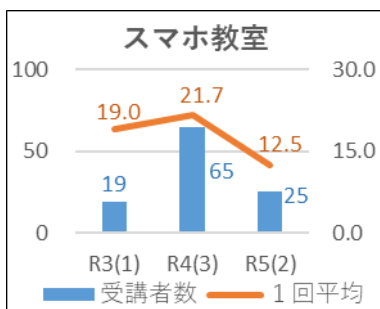
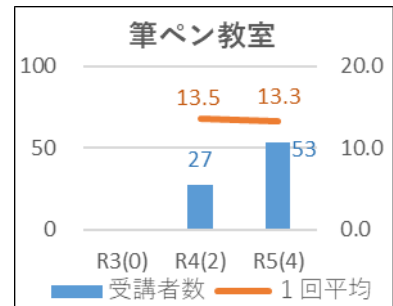
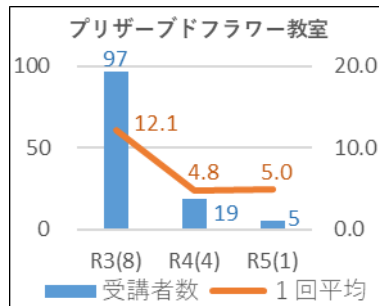
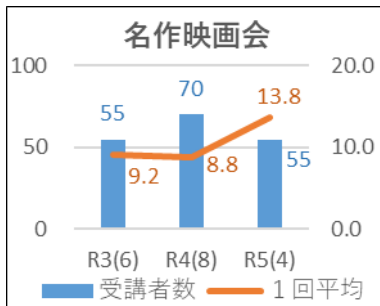
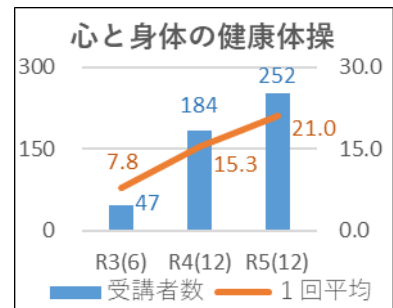
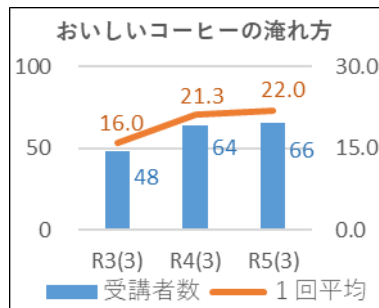
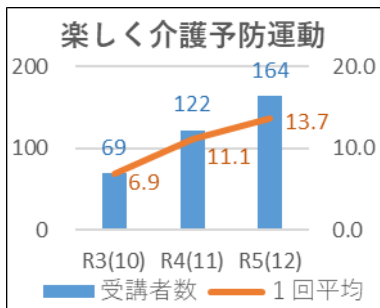
年度	R1	R2	R3	R4	R5
総受講者数	315	111	335	603	679
1回平均者数	12.6	7.9	9.9	13.7	16.2
講座回数	25	14	34	44	42

令和3年度以降、総受講者数と1回平均の受講者数の増加が見られる。



※ グラフ横軸の（ ）内の数字は講座回数

2 連続講座別の受講者数（令和3年度以降）



※ グラフ横軸の（ ）内の数字は講座回数

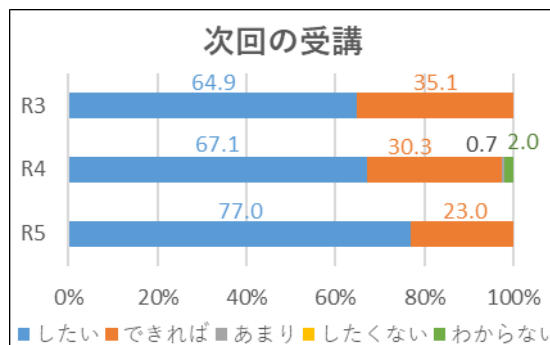
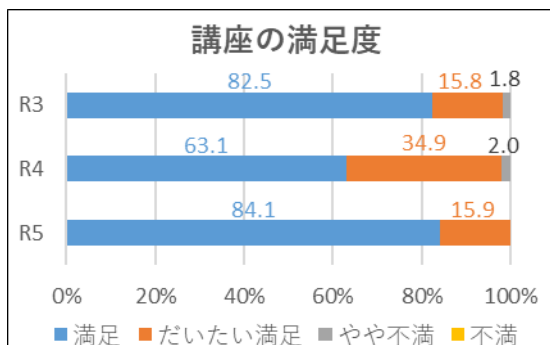
1回平均の受講者数は、「楽しく介護予防運動」「おいしいコーヒーの淹れ方」「心と身体の健康体操」「名作映画会」の4講座で増加した。「筆ペン教室」と「パソコン教室」は、定員いっぱいの受講であった。

「スマホ教室」は令和5年度からは20名の定員を設けた。申し込みは定員近かったが、体調不良や期日忘れによるキャンセルが多く、減少となった。

「プリザーブドフラワー教室」は、初年度は興味関心を呼び大好評であったが、新規の受講や再度の受講に結びつかなかった。周知方法や講座内容の工夫が必要であったと反省している。

3 アンケート結果

連続講座では、春と秋のそれぞれ最終回にアンケートを実施している。令和3年度以降の「講座の満足度」と「次回の受講希望」は以下のものであった。



アンケートを実施した講座は、「スマホ教室」、「筆ペン教室」、「プリザーブドフラワー教室」、「心と身体の健康体操」、「楽しく介護予防運動」、「おいしいコーヒーの淹れ方」、「パソコン教室」（令和5年度のみ）の7講座であり、「講座の満足度」、「次回の受講」ともほぼ全員から肯定的な意見をいただいた。

4 おわりに

この3年間で、総受講者数や1回平均の受講者数ともに増加しており、受講者の回復が見られる。これは、新型コロナウイルス感染症の第5類移行などにより、受講への影響が少なくなったことが大きな要因であることは言うまでもないが、連続講座の開設や周知への取組の成果も少なくはないと考えている。

講座のアンケート結果を見ると、満足度や次回の受講希望などは非常に高いものがあり、魅力的な講座が多く開催できたと言え、この3年間の取組に一定の成果があったと考えている。しかし、減少した講座もあるため、問題点や受講者のニーズなどをしっかり把握しながらの開設が求められる。

右の円グラフは、令和5年度受講者へのアンケート結果である。「健康や運動」、「家庭生活」、「スマホやパソコン」、「芸術・文化」関連の講座開設の希望が多い。そこで、来年度からは、これまでの連続講座の開設も継続しながら、新たな講座（単独講座も含めて）も開設し、受講者のニーズに応えられるよう取り組んでいきたい。また、講師を琴海地域に関連のある方に依頼するなど、地域に根付いた講座となることも目指しながら、なお一層、「つどう・まなぶ・むすぶ」ための取組を行っていききたい。

